

# ライフプラン分析の考え方

Akira Sugiyama

2018年6月



# 目次

第 1 章	ライフプラン分析から必要保障額を検証する	1
1.1	必要保障額とは . . . . .	2
1.2	葬儀費用 . . . . .	4



## 第1章

ライフプラン分析から  
必要保障額を検証する

## 2 第1章 ライフプラン分析から必要保障額を検証する

---

### 1.1 必要保障額とは

必要保障額とは、一家の大黒柱である世帯主が亡くなったときに、どの程度の保険金があれば、その後の生活に困らないかという金額です。

独身の場合にはそれほど考えなくてもよいのですが、結婚して子どもができると誰もが気にする金額です。この金額の求め方は、1.1式のようにして計算するといわれています。

$$\begin{aligned} & \text{遺族生活資金 - 準備資金} \\ & = \text{葬儀費用等} + \text{現在の月額生活費} \times 0.7 \times 12 \text{ か月} \times \\ & \quad (22 - \text{末子の現在の年齢}) \\ & + \text{現在の月額生活費} \times 0.5 \times 12 \text{ か月} \times \\ & \quad \text{末子独立時の妻の平均余命} + \text{こどもの教育資金} \\ & + \text{こどもの結婚資金援助等} + \text{債務残高} \\ & - (\text{遺族年金額} + \text{死亡時退職金} \cdot \text{弔慰金} + \text{現在の貯蓄額} \\ & + \text{妻が働いて得る収入} + \text{不動産収入など}) \end{aligned} \tag{1.1}$$

具体的なケースを考えて、1.1式を使って必要保障額を計算してみましょう。次のようなケースを考えることにします。

- 世帯主（宮前 健司 様 45 歳）
- 配偶者（宮前 佑子 様 42 歳  
51 歳時の平均余命は 37 年）
- お子さま（健太 様 12 歳）
- 月々の生活費 35 万円
- 遺族年金 月額 8 万円
- 死亡退職金 1,500 万円
- 葬儀費用 100 万円
- こどもの教育資金 300 万円
- こどもの結婚資金援助 150 万円
- 妻が働いて得る収入 1,000 万円
- 現在の貯蓄額 300 万円

$$\begin{aligned} \text{必要保障額} &= 100 + 35 \times 0.7 \times 12 \times (22 - 13) + 35 \times 0.5 \\ &\quad \times 12 \times 37 + 300 + 150 \\ &\quad - (4,416 + 1,500 + 1,000 + 300) \\ &= 10,866 - 7,216 = 3,650 \text{ 万円} \end{aligned} \tag{1.2}$$

必要保障額の計算は、このようなしくみになっています。1.2 のとおり、必要保障額は 3,650 万円と計算されます。世帯主に万が一のことがあったときに、これだけの金額が準備されていれば大丈夫ということになります。

さて、ここで気をつけていただきたいことは、**1.1 式で計**

## 4 第1章 ライフプラン分析から必要保障額を検証する

---

算される必要保障額は、まったくの概算値であって、条件により大きく変動するということです。

### 1.2 葬儀費用

葬儀にどの程度の費用がかかるのか、日ごろから把握している人はいません。だから、いざ人が亡くなって葬儀となると葬儀会社頼みになってしまう。私たちは、ずっとそうして過ごしてきました。

しかし、時は流れて、葬儀といえども人はコストを正しく把握するようになってきました。何にどの程度のお金がかかっているのかを気にするようになり、その結果、葬儀費用は随分と下がってきています。

葬儀費用は、平均すると200万円少しかかるという統計データを目にすることがありますが、現在では、それほど費用はかかりません。なぜなら、「家族葬」というものが登場したからです。

家族葬の定義はあいまいですが、一つはつきりしていることは、家族葬を前面に出さないと葬儀会社の営業に差し障りがあるほどに普及しているということです。参加するのが家族だけなのか、友人までも含めるのかというよりも、参加者の総数が数十人というのが、正しい家族葬の理解のようです。

社会の高齢化が進み、亡くなる人の年齢が高齢になったため、葬儀に参列できる人の数は減ってくるという当たり前の

現象を反映したものが家族葬といえるでしょう。

図 1.2 に示すように、家族葬であれば、葬儀費用の見積もりは 100 万円程度で十分です。

図 1.1 家族葬の場合にかかる費用の見積り

